

# ひとりごと

2022年11月18日(火) 東京にて

「寝る前の読み聞かせが、子どもの教育に効果があるらしい。」といった声を自身が教員になってから、声高に聞いた時期があった。

両親共働きで帰宅が遅かったため、幼い頃の私を寝かし付けるのは祖父母の仕事であった。寝付きの悪かった私を寝かし付けるのは、なかなか困難な一仕事であったろうと思う。祖父はよく夜のドライブに連れていってくれた。福岡空港や中州の川沿いのネオンを眺め、ドムドムやロイヤルホストでドリンクを飲み、やっと眠りについた。祖母は私をおぶって近所を小一時間も散歩して回ってくれた。

私を寝かし付ける手段の中に、読み聞かせも確かにあった。もっぱら祖母が読み聞かせをしてくれていたものだが、その多くが仄暗い常夜灯の下で、静かに、ゆったりと読み上げられる推理小説であった。幼少期にアニメやドラマでは無いシャーロックホームズや怪盗ルパンを知る子どもは、そう多くは無いのだろうとふと思う。中でも私が気に入っていたのは江戸川乱歩の「怪人二十面相」から続く少年探偵団シリーズであった。続きが気になり、余計に眠れなくなりそうなものだが、不思議とそのまま眠れたものだ。

読み聞かせの効果があったかなかったかは不明だが、私は大学で国語を専攻し、卒業後に島根県で小学校の教員となり、この春からは何故か文部科学省へ研修生として派遣されてきた。東京での生活に憧れがあったわけでもなく、出不精の性質でもあるため、休日も特に何をするでもなく過ごしていたが、何とも勿体ないことをしているのではないかと感じ、「何か東京らしいことをしよう」と、思い立ったことが、「江戸川乱歩の愛した天麩羅」という謳い文句の店で天麩羅を食べることであった。

ここまでは「読み聞かせ」の効果は抜群であるかのように聞こえるかもしれないが、勿論、弊害もある。大人になった今でも、どうしても常夜灯で眠ろうとすると、「眠っている間に二十面相が現れ、何かを盗まれやしないだろうか。」「目覚めると、さるぐつわをされてどこかに連れ去られてしまうのではないだろうか。」と不安になってしまい、寝付きの悪さに拍車がかかる。真っ暗の方がよほど安心できる。

天麩羅を頬張りながら、幼い日の、読み聞かせをしてもらっていた頃の景色が目に浮かび、天麩羅も好きだった祖母に食べさせたら何と言ったかな。もしかしたら食べたことがあったかもな。と、先日亡くなった祖母の、推理小説を読み聞かせているとは思えない、穏やかで温かな声と、柔らかな笑顔が思い出された。

(T.Y)